個人情報の公開はトラブルの入口

家族で
話し合おう

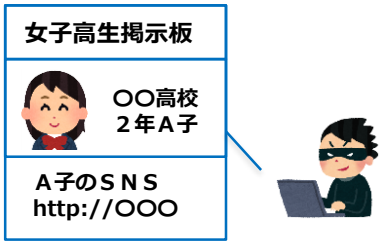
ネットパトロールを行うと、たくさんの子ども達の個人情報をインターネットで確認できます。このような書き込みを行ったことがきっかけで、嫌な思いをしたりトラブルに巻き込まれるかもしれません。今回は、個人情報の公開によるリスクと、日常的な情報発信の際に気を付けて欲しいことについて説明します。

「掲載された個人情報は誰でも利用できる」

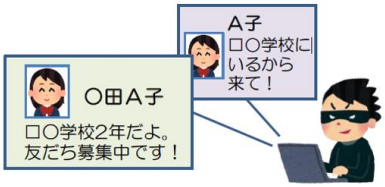
インターネットに書き込まれた情報は、見るだけではなくパソコンやスマホに保存することができます。例えば、友だちに見てもらおうと思って載せた写真でも全然知らない人が保存して勝手に利用することができるのです。写真と一緒に「保存禁止」「無断使用禁止」と書いておいても、その写真をどう扱うかは相手の人次第なのです。

個人情報(写真)を掲載

勝手に掲示板に載せられる



なりすまし被害にあう



「個人情報はいろいろなところから分かる」

日々の出来事の書き込みを繋ぎ合わせていくと、書き込みをしている人がどこの誰だかわかってしまうことがあります。利用している駅に関する書き込みからは居住地域の見当が付きます。さらに修学旅行に関する書き込みから日程や行き先が分かると、学校や学年も簡単に分かってしまうのです。

〇〇駅で電車に乗った

＋

〇月〇日修学旅行に行った

＝

居住地域・学校・学年が分かる

「個人情報の公開」を普段の生活に置き換えて考えてみる

自分の個人情報が書いてある紙を電信柱にはったり、自分の背中に貼って歩いたりする人がいるでしょうか。そんな事をする人はいませんよね。実は、インターネットで個人情報を公開することはこれと同じようなことなのです。個人情報を公開すると悪意のある人に狙われやすくなるのはインターネットも普段の生活も同じです。普段の生活でもやらないことはインターネットでもやらないようにしましょう。

【学校教育ネットパトロール】制作：ピットクルー株式会社